

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番地10
TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆

小林国二 小林善秋 高橋潔 加瀬由紀子
室賀清輝 近藤マリ子 近藤善信

後援・株式会社アサヒ
印刷・(株)北越時報社



残雪の残る春の訪れを待つ安善寺本堂

ご家族の皆さままでご覧ください

慈愛の心と感謝の心で 思いやりのある言葉

翠巖 龍弘

修証義の第二十二節に、「愛語とは、人々に対して慈愛の心をもち、思いやりのある言葉を差し上げるのです。母親が赤ちゃんを慈しみ、愛情のこもった言葉で語りかけるのが愛語です。徳ある人は讃め、徳の薄い人は憐れみの心で接し、怨みを持つている敵を説き伏せ、権力者同志を和睦させ

修証義の第二十二節に、「愛語とは、人々に対して慈愛の心をもち、思いやりのある言葉を差し上げるのです。母親が赤ちゃんを慈しみ、愛情のこもった言葉で語りかけるのが愛語です。徳ある人は讃め、徳の薄い人は憐れみの心で接し、怨みを持つている敵を説き伏せ、権力者同志を和睦させ

私達人間は体の七十パーセントが水だそうです。慈愛の心をもち、感謝の心をもつての思いやりのある言葉や文字は、自分自身も相手にも美しい結晶をつくり、昨日の敵が今日の友となるような、平和でお互いに助け合うことの出来る世の中を作る事ができるのではないでしょうか。

著者はオリジナルな視点から水の研究に取り組んでおられ、水の氷結結晶写真を多く撮り、水は結晶を通して多くのメッセージを私たちに送ってくれていると紹介しております。水に美しいクラシック音楽を聴かせると、美しい結晶をつくり、怒りと反抗の言葉の満ちたヘビーマタルの曲は、結晶がばらばらに

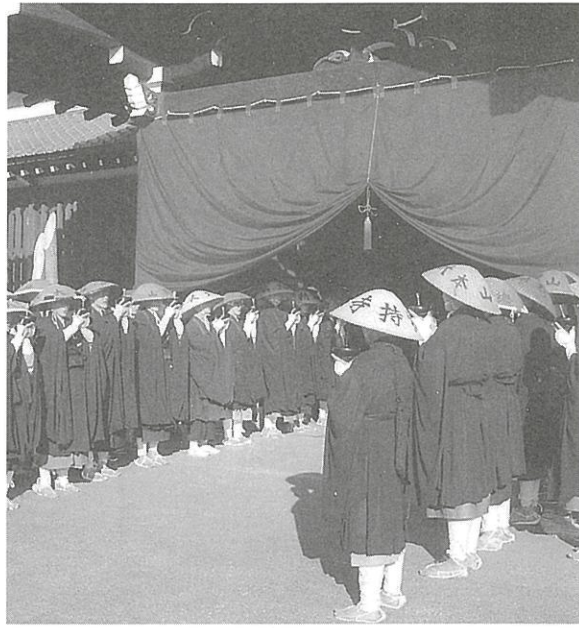
壊れた形になり、またガラス瓶に水を入れ、言葉を書いた紙を水に向けて貼りつける。「ありがとう」という言葉を見せた水は六角形のきれいな形の結晶をつくり、「ばかやろう」の文字を見せた水は、ヘビーマタルの音楽と同じく、結晶がばらばらに砕け散ってしまったそうです。同じように「しょうね」と語りかけの言葉を貼った水は形の整った結晶になり、「しなさい」のほうの水は、結晶を作ることができなかつたそうです。特に「愛・感謝」の文字の場合、完璧といつて良いほどの美しい結晶をつくつたそうです。

るのも愛語が根本です。面と向って愛語を聞けば、喜びが顔に表れ心を楽ししくし、人伝えに愛語を聞けば、肝に銘じ魂に刻み込まれて感動するものです。愛語には天子のような権力者の意志をも変える力があることを学ばなくてはなりません。」と説かれております。人間は言葉や文字によってお互いの考えや気持ちをつなげておられますが、今日私共の周囲には冷たく、刺のある言葉や文字が氾濫してあります。こんな折、「水は答えを知っている」（江本勝著）を読む機会を得ました。

【大本山總持寺 雲水日記 特別編】

寒中托鉢

近藤 真弘



大本山總持寺では、一月五日から節分の前日まで毎日午後、寒中托鉢が行じられます。

出発前、全員で香積台で『般若心経』を唱え托鉢施主の家の安全、身体健全等を回向します。寒風吹く中、素足でわらじ履きは厳しいですが、これも修行、毎回緊張のうち二列に並んで出発します。



応量器を戴き、経を唱えながら山門を通り、鶴見の町へ、路の両側を二列づつ並んで鈴を鳴らしながら托鉢をします。



通行人の方から浄財をいただきますと、その人の前で「財寶二施、功德無量、檀波羅密、具足圓滿」(財と法の二施は功德無量なり。



檀波羅密、具足圓滿)とお唱えします。短い時間ですが、浄財をされた人も布施を受けた私共も、共に合掌、寒さも忘れ布施の尊さが実感される時です。托鉢しておりますと、全く知らん顔の人もいられますが、高校生からお年を召したかたがたまで、多くの人が布施をして下され、又「ごろうさん」と言葉をかけて下さる人もいられ、あらためて、大勢のかたから私達の修行に応援をいただいているのだと、背筋がのびる思いです。

帰山すると香積台でお経を読み、その日の托鉢の終りです。薬石(夕ご飯)が大変美味しい事、この上なしです。

平成の米百俵PNG版

室賀輝男

昭和十八年四月十八日、南太平洋のブーゲンビル島上空で、山本五十六連合艦隊司令長官が搭乗した海軍一式陸上攻撃機が、アメリカ軍の戦闘機によって撃墜され、今年で六十年になります。その長官機の里帰り運動を始めたのが昭和五十九年三月で、平成元年四月二日横浜港に到着まで、日



本から遙か七千キロ赤道を越えたパプアニューギニアに十数回訪問した。オーストラリアから独立間もない新興国で、政情不安定政変の度に交渉が振出しに戻る。地図も頼れる知人も少ないブーゲンビル島のジャングルへ、酋長を先導に何回も現地へ入りました。政府より地方部族が力

を持ち、中央、州政府と部族の三者合意が必要な事業で、村民との融和と理解を得るために彼等の家に何回となく宿泊した。肌の真黒いメラネシア系住民はクリスチャンで人柄もよい。電気水道もない椰子の葉で屋根を覆った粗末な家に住み、酋長を中心集落を形成、農業と狩猟で自給自足の生活で、どの家も沢山の大家族である。諸、野菜、バナナの粗末な食事に家族全員で食卓を囲み、家長と共に祈りのあとで一斉に食事が始まる貧しさなどみじんも感じない家族団らん和やかな食風景。家庭の躰は厳格で子供達には各々の持分、仕事を与えられており、極く自然の中で調和が図られているなど、日本の家庭で失われ、忘れられようとしている事柄にいくつか出合った。日本の社会と対比、子育て



にいろいろ考えさせられた。村には寺小屋のような学校があり、乏しい教材の中で一生懸命に学ぶ姿があったが、現代の財政、行政力から教育、医療の立遅れは如何ともし難い状況である。これが長官機のあるココポ村を含めて・・・この国の実情だ。幾度かの滞在を重ねる村人との信頼関係が出来上り、翼の持出しの合意が出来た。村民総出でシンゲシンゲ(お祭)に送られて長官機の里

帰りが実現した。

その後パプアニューギニアとの恒久平和と友好のために将来の人材育成教育が一番大切なプロジェクトと認識。山本元帥景仰会の決議を以て、平成九年四月に山本ココポ基金を創設。平成の米百俵の精神でパプアニューギニア政府に提示。現在基金の利息で現地の教育人材育成の給付が行われている。平和の尊さを伝える山本記念館も県内外から多くの

参観者を迎え順調に入館者を伸ばしている。

新潟日報連載の工藤美代子さんの書き下ろし「海続く果て 山本五十六」も好評で、福島、富山県の地元紙に並行して連載中で、四月十八日の法要のあとに工藤さんの特別講演会も予定さ



れている。安善寺の墓地に眠られる駐米大使齊藤博閣下と共に、長岡が生んだ日米開戦前に平和を願われたお二人にどんなスポットが当てられるか、連載二五〇回(予定)を楽しみにしていると共に、是非山本記念館を一人でも多く参観して戴ければと願っている。

近隣寺院紹介 戊辰戦争と第二次大戦をくぐり抜けてきた古寺

長福寺 長岡市西新町

長福寺住職 伊藤 正春

一、長福寺由来

寺は龍穩院第七世、飾州慈嚴大和尚(承)応三年五月寂・本年三百五十回忌が開祖となり世代を重ね小納まで廿六世を数える。開基は文亀二年(西暦一五〇二)古寺見学で京都より来山した専門の宮大工が本堂は本来法華宗の造りと申していた。

曹洞宗になる前は法華宗・真言宗と続いたが、資料紛失して幾世代であったかは定かでない。

本堂の建物は概算五百年を越している。天和三年(西暦一六八三)新保村より現在地に移ってきた。三百二十年になる。本堂の柱はそれぞれ地上で生長した向きのまま使用され、まだかなりの年月大丈夫である由である。

二度の大戦火をくぐりぬけた。戊辰の戦い。本堂は長岡軍と西軍の攻防の真只中であつた。西軍が本堂を占



絵・禅道泰藏

據したとき八丁堀より上陸夜襲をかけた両軍の間に無数の弾丸が攻め交い、長岡軍の弾痕が本堂の柱の北側だけ残され激戦の往時を偲ばせる。河井継之助は陣羽織の目立った姿で本堂を出て間もなく新町旧国道附近に待ち構えた西軍に撃たれた。担架に乗せられ八十八里峠

を越えて只見町に向つた。次は第二次大戦の長岡空襲時。私が兵役で寺に居らぬ時の出来事。復員してみると昔ながらの囲炉裏の煤けた棚の上には焼夷弾の殻が五発上がったままになっていた。それは本堂の瓦を破って中に落ちたものだ。皆でなんとかして外に出し

た由。本堂、庫裏が火に囲まれ東側の大銀杏の幹半分が焼け焦げ、小屋にも延焼し、裏にも危険が迫つたのによく助けて戴いたものと思つている。

二、尊像のこと

本尊はお釈迦様御生像。平安時代作と云われるが資料紛失。十王堂像(天正十年一五八二年本能寺の変あり)と古い寺過去帳に銘記あり。十王堂に収め信者に尊ばれていた。優婆尊者(咳の婆さんとも呼ぶ)百人咳治癒を念じて遠方からもお詣り絶えず、六月十五日に御開帳、大般若会を致し、夜遅く迄お祭りの賑やかさであつた。柳田国男の全国有名行事を取り上げた著作の中に記載されてある。

水流れ地蔵。天保七年一八三八年長野方面の大洪水で流れ来た木彫りの地藏尊者を川べりの下町、永井沢右工門に拾

いあげられ寺に収めた。当時は今より一層素朴な佇まいを持っていた。

三、史跡

餓死人満霊等。(維時天保西年五月上流、新保邑長福寺現住鳳瑞誌之) 天保八年(一八三七)十八世祥雲鳳瑞大和尚の筆なる。天保の大飢餓で草も稔らぬ程の時、米作が全滅し農民も親戚の農家にやつと辿り着いても入り口の戸を閉められ、その前で倒れ息絶えて行つたという幾多の哀話が伝わっている。数え知れぬ飢餓者の遺骨が収められている。

活していきたいものです。

春季彼岸会

- ◎彼岸入り 三月十八日(火)
- ◎彼岸中日 三月廿一日(金)
- ◎彼岸明け 三月廿四日(月)
- 各々、午前十一時より法要・法話・茶話会

花まつり(釋尊降誕会)

五月五日(子供の日)長岡市仏教会主催
お釈迦様の誕生日です。正午より長岡市大手通りの歩行者天国で、お練り・稚児お育て法要・甘茶接待等

本山参拝と親睦旅行

五月十一日(日)〜十三日(火) 二泊三日。大本山總持寺と母畑温泉の旅

大般若法会・先住忌

六月十二日(木) 十時〜大般若法要・十時四十五分：先住忌(二十二世 大枝香曇大和尚百五十回忌・二十六世 重興雲巖見龍大和尚十七回忌)

法要了、説教・お斎
(大般若・先住忌につきましては、追ってご案内申し上げます)

安善寺春の行事予定

(三月〜六月)

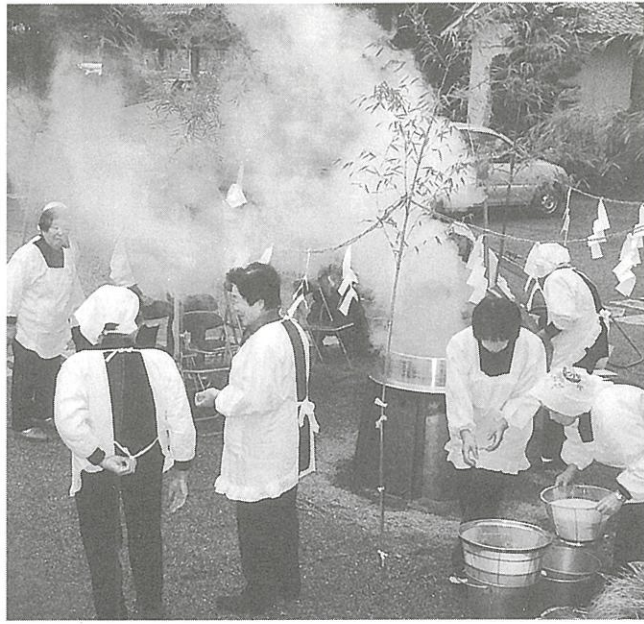
涅槃会

三月十五日(土) 十一時
法要・法話・お斎・団子まき

お釈迦様の入滅された日(二月十五日が正当)で、団子まきで親しまれている法要です。お釈迦様の教えをいま一度心にかみ締めて生

女性パワーをお貸しください

近藤マリ子



季刊誌が出来て丸六年。故・安藤編集長の「お寺と壇信徒のパイプ役になれたら」と、何も無いところから始まった頃の事を思い返しながらか、創刊号から読み直してみました。携わってくださった皆様の文章からもそんな思いが随所に感じられ感謝の念をあらたに致しました。

それに反して年々寺行事に参加なさる方々は少なくなる一方です。一歩外に目を向ければ個々の興味を引くことがいくらでも選べる世の中ですから無理もないのですが、でも折角ある大きな伽藍、施設、それよりも皆様の偉大なる智慧や行動力、特に現代の女性パワーの凄さを少しお借りして

安善寺から現代のニーズに
応えられる「婦人会(仮称)」
があっても良いのでは…と
言う声は僅かですが耳に入
ってまいりました。
季刊誌と同じで何も無い
ところからのスタートです
し、漠然とし過ぎているので
雲をつかむような状態です。
そんな中、婦人会(清心会)



が発足して約十年、百名位
の会員で年六回位の行事を
積極的に展開しておられる
龍淵寺様(熊谷市)の年間行
事の一つ「七草粥祈禱会」が
二月十一日に行われました
ので、四名で参加させてい
ただきました。
境内に一歩足を踏み入れ
た私達の目に飛び込んでき
たものは、本堂の前庭に設
えられた一斗釜でした。中
からはもくもくと湯気が立
ちこめ、真っ白な割烹着を
つけた壇信徒の方々が喜々

として、それぞれの持ち場
で、まさに活気にあふれた
光景でした。
仏前には御洗米、七草が
供えられ御住職のご祈禱の
後、七草は給仕人により調理
人の所に運ばれ参拝者の目
の前で七草を切り、御洗米
と一緒に外の釜に運ばれて
七草粥が炊かれるのです。
炊きあがったお粥はそれ
ぞれお盆に載せられて大勢
のお給仕の方々が手際よく
百名余の参拝者に運ばれ、
たくさん炊いたお粥はとて



も美味しく暖かい気持ちに
なりました。
参加してみて、活気のある
事に圧倒されつつも、やは
り女性パワーは凄いな!
と思いました。
お寺の雰囲気、その土地
の風土、環境、携わって下さ
る方々の考え方、いろいろや
り方があると思いますが、
やらなければ何も始まりま
せん。若い方たちも参加出
来、地域社会に貢献できる
ような会が作れたらと思っ
ています。

読者からの便り

温情を忘れず

長岡市 ● 小林十代次

一九五一年(昭和二十六年)、日米安全保障条約調印、民間放送が始まる。城岡駅が北長岡駅と改称。平和像が長岡駅広場に出来る…。年表にある如く、何時頃



出来たかいささかではないが、終戦前に城岡駅前通りの紙会社(北越製紙)の引込線より南方(駅側)に他国の捕虜収容所もあり、戦後には飲み屋(食堂)、パチンコ店もあった。当時は、駅から乗降する人が黒山の如く先が見えない程であった。私の爺さんの兄弟は七人で、男が六人、女が一人で七福神と呼ばれていたらしい。貧乏で、年貢米の取り立

てや水害で、食うや食わずの生活が続き、東京へ出て一旗上げる人が多かった。(米屋か豆腐屋が多かったようである)

七人兄弟の四人目の人が朝鮮に渡り、仁川で古物商を営み、順風満帆で繁盛していたとのこと。西村八幡神社境内に一九二八年(昭和三年十一月)、御大典記念献燈朝鮮仁川 小林康次と記してある。成功、出世した叔父さんにあやかり、親類の孫は名前を仁と名付けた。

終戦後、朝鮮に渡った叔父さんが帰国を止むなくされ、九州に渡り、その後実家の当家に落ち着かれ、やがて城岡の諏訪神社の隣の家を買って住まれた。

職場もないので経験を生かして小間物屋を出し、縄土品なども自分で作りつけて店に飾り、ゾウリ、ワラゲツ、フカゲツといった品があった。作れば売れる時代でもあった。今、遺品として残っているのは、私室にあるフカゲツ一足ぐらいであろう。

新潟日報コンテスト「新春文芸」佳作に選ばれた市内



あの時のご恩は一生七ねれません...

ありがとう...

のお方の作品に「握り飯」との題で、爺さんが孫達になんでもいいから腹の立つたことを話してみろと云われ、「僕の握り飯を母さんが太郎丸のユキにやったことです」と云い、外の孫達は笑った。という作品があった。太郎丸のユキという女性乞食が、年に数度村中を回った。私が城岡の叔父さんの家へ用に行った時、そのユキが来た。店先でローソクを二丁くれとの事、何に使うかと親父さんが訪ねたら、世話

になった人が死んだのでと云ったことが耳の底に残っている。ユキが来ると故人は何かしら与えたのだろう。温情を忘れずにお別れをしたのだろう。そのユキも、叔父さんもこの世にはいない。時の流れは川のように。朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)による拉致被害者の皆さんが一日も早く帰国せられ、家族と一緒に暮らせることを願うのは私だけではないと思います。春の来ない冬は無い。

燕市 ● 大原明子

身近なことを感じて俳句を作りましただけでご紹介させていただきます。

父と母 静に生きる桜餅

雪晴れや

陽に誘われて散歩する

庭先に

賑やかな声初雀

和菓子店に

代々続く福寿草

狭庭にも

山茶花咲いて主役なり

お別れ

(平成十四年十二月六日)

小田利夫様 一月八日寂

長岡市東栄

渡邊フミ様 一月廿六日寂

長岡市東坂之上

保科久策様 二月廿四日寂

長岡市東神田

ご冥福をお祈り申し上げます。

旬歌 愁灯

「その二」

リリーマルレーン

加瀬由紀子

一九七十年代の後半を東京の小さな出版社で記者として過ごした。大手出版社の下請けの記事や、上場企業の社内報、広報誌、ミニコミ誌等の取材、編集を引き受けていた。

中でも印象深いのが新潟鉄工の仕事である。地下鉄・虎の門駅の階段を昇ると季節の花でいつも彩り豊かな広場があった。広場に面した十数階建ての日土地ビルは、守衛さんが厳重にチェックし、低い階にはブティックやレストラン、その上は外資系の企業。五、六、七階を新潟鉄工の本社が占有していた。大使館や名門ホテルが連なる一等地

に、新潟の企業ががんばって、その社内報のアドバースをさせていただけなのが何とも嬉しかった。

しかも担当は私と同年代の女性であった。私の叔父と同じ早大の政経の出身で、学生運動の経験もある社会派、とくれば意気投合するのには時間を要しなかった。仕事を離れても親しい友人として付き合うようになった。

ある年の初夏の夜、私たちは週末の銀座でウィンドショッピングを楽しんだ。「ねえ、今日は七月十四日、パリ祭の日なのね！ 知っていた？」松坂屋のビル沿いのエッフェル塔の描かれ

た看板を見て、友はもう引き込まれるように地下への階段へと私を誘った。

そうだ、シャンソン喫茶「銀巴里」に初めて行ったのはパリ祭の日だった。ほの暗い店内を、軽やかにそして悲しく流れていった歌声。ピアノやアコーディオンの響き。歌っていた歌手の名も曲も忘れてしまったが、かぐわしい匂いがふとよみがえる。それはリラの花の香りだったかもしれない、あるいは若き日の憂いと昂ぶりだっただろうか…。

彼女は、「シャンソンではないかもしれないけれど、『リリー・マルレーン』が好き。マレーネ・デートリッヒが映画の中で歌ったあの曲はね、あれは立派な厭戦歌よね。」と言った。この映画は実話に基づいて造られた。第二次世界大戦のアフリカ戦線で塹壕にいるドイツ軍兵士達が、毎晩八時になると、ベオグラードのラジオ局から発信されるこの歌にダイヤルを合わせた。歌はやがて戦線を飛び越え、イギリス軍などの連合軍

兵士達までもが口ずさむようになった。映画でデートリッヒ扮する酒場の女性、リリーが歌うこの曲はその後歌い継がれてきた。「ガラス窓に灯がともり 今日町に夜が来る いつも酒場で陽気に騒いでいる リリーマルレーン リリーマルレーン」の一番から始まり、最後に「月日は過ぎ人は去り お前を愛した男達は 戦場の片隅静かに眠ってる リリーマルレーン」

リリーマルレーン」で終わる曲である。銀巴里でパリ祭を祝った二年後、私は父の入院で東京の生活に別れを告げた。

今年も二月の夜、私が代表を務める「ル・ヌーヴォーわいの会」は、シャンソン歌手の美海ゆみ子さんを迎え「銀巴里ノクターン」というノスタルジックな内容に百名近い参加者が酔いしれた。プログラム作りの時、「シャンソンではないんですが」と私はリリーマルレーンをお願いした。美



海さんはアンコールにこの曲を歌って下さった。戦前の上海のフランス租界のような雰囲気、終わっても席を立つ人がいなかった。銀巴里は一九九〇年暮、日本のシャンソン界に大きな足跡を残し店を閉じた。新潟鉄工は一昨年、破綻し、虎ノ門の灯は消えた。パリ巴里祭の夜、熱く語った友は今、どうしているのだろうか…。リリーマルレーンの歌声はワイングラスを揺らし、凍てつく夜のしじまへと消えて行った。

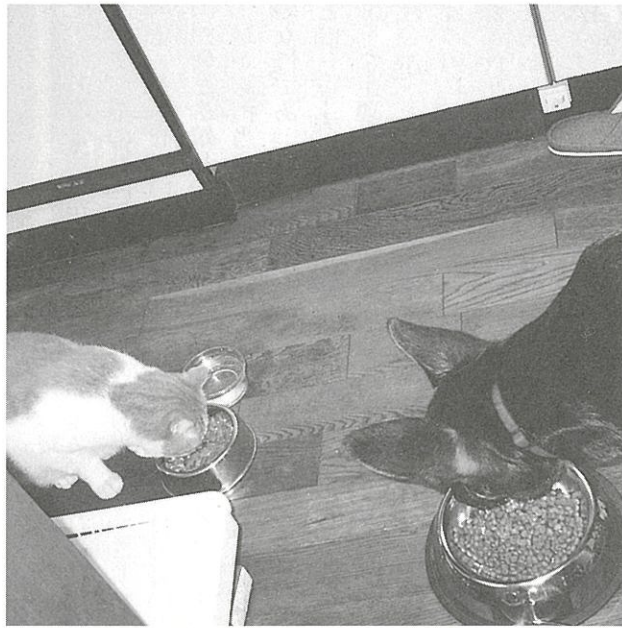
懐かしい思い出



立春を過ぎたとは言え、まだまだ寒い日が多く、今冬は小雪だったとは言いがらも、中庭は本堂と庫裏の屋根に積もった雪が落ちる場所、庭石や木々がすっぽり隠れてしまった庭は、まだ真つ白で庭石さえも顔を出さない状態です。

それと小雪だった割には湿っぽく重かった雪は、春を待つ木々にとっては大打撃でした。桜、いちよう、樺の太い枝まで木によつては根こそぎ倒れている木もあちこちで多くみられました。

そんな中、昨年十月下旬すっかり訓練を終えて帰って来たさくらとお母さんが雪がいっぱい積もっている庭で、晴れ間を見てはボールで遊んでいる楽しそうな声が聞こえてきますが、私にも小さい頃、皆が卓球をしていると、ピンポン玉に飛びついてじゃれたり、お兄



ちゃん達がサッカーをしているとボールを追っかけてたりの時期がありましたっけ…。懐かしい思い出です。

懐かしいと言えば写真のように、一匹で向いあつて食事をしていたこともありましたが、今は大きさに圧倒され、住職やお母さんに「大丈夫」と言われても傍に行く

のが怖いくらいです。暖かい部屋で丸くなって寝ているに超したことはありません…。

最近、お母さんが何やら小さな土鍋でおじやを作ったり、うどんを煮込んだりしているのです。誰か病人でもいるのかと心配していましたら、住職が食事の度

ペロのひとりごと

に顔をしかめて食べている

ではありませんか。どうしたのかと想ったら、最近、下の歯を義歯にしたようですが、それがなかなかしつくりといかず、嘔むと辛そうで一緒に食べている人も

食欲が無くなりそうだったので、何度か調整に歯医者さんに通い、ようやく落ち着き、漬物を美味しくうに食べられるようになりました。

私も人間の年齢になると住職よりもずっと上になります。そういう心配はないようです。にゃーん

編集 雑感

この広報に携わってもう何年も書いていっているようななかなか上手く書けない悩みは才能の無さを思い知らされる。今回は面白い本を紹介して雑感にしたい。

その本は「水からの伝言」と言う本です。江本勝著・波動教育社出版。ご存知の方も沢山おられることでしょうが、最近の衝撃的な一冊でしたので…。

この本は水を氷結した結晶体を写真撮影したものを紹介してあるのです。私達の身体も水の惑星と言われ

る地球も、70%が水分ですから。楽しい音楽や優しい言葉や素晴らしい人に出会えると、安らかな気持ちや楽しい気分になる。水の波動を受けてなるものだから

です。

水は気によって変化する。それもはっきりと見える状態で確認することが出来る。ベートーベンやモーツアルトの美しい曲と、若者が好むヘビメタや怒りの曲では、天使と悪魔の結晶体が現れるから恐ろしい。水は気を受けて姿を変える。愛の声をかけて育てることの重要性をこの本の実験は証明しています。

特に、あるダムでお経を聞かせた水の変化には驚異を覚える結果があります。最高な結晶体がこの本の表紙を飾っています。

食品作りの小生には、水の大切さは理解していましたが、水を労わり感謝するまでには至っておりませんでした。

これからは水に「ありがとう」の気持ちをいつも伝えたい、そうなる一冊を紹介しました。

言葉には表せない、とにかく見て欲しい一冊です。

(小林国二)

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問(編集部や住職がお答えします)など。
- 嬉しい・楽しい/嬉しかったこと、楽しかったこと、怒ったこと。

第二十二号、夏号は平成十五年七月七日(月)発刊予定です。

※欄外の和歌は道元禅師の詠まれた和歌です。